

つながり つづくよ 人の輪 地域の和

国・県の事業活用
 村民が島の魅力を考えるきっかけになった島懇事業の活用



古民家を修復・改修した民宿

産業の育成や雇用の確立など地域の活性化を大きな課題として抱えている渡名喜村。平成十二年「沖

村民が島の魅力を再確認することが大切ね。

渡名喜村

渡名喜村の島おこしは、どこにもない自分たちの島の魅力を再確認することから始まっています。

縄米軍基地所在市町村活性化特別事業（島懇事業）の活用から、課題解決へ向けた新たな一歩を踏み出しました。

村民への聞き取り調査やアンケート、視察研修などを経て、村民の意見を反映させた独自の事業計画を策定。平成十五年、伝統的な集落の景観を観光資源として活かすプランとして動き出し、集落内の伝統的旧民家を修復しました。その中から観光拠点になる場所として食堂一棟と宿泊施設六棟が誕生。島内観光用の一人乗り電気自動車十台の導入など、ハード面の充実を図りました。

平成十九年、村民へ再生古民家を利活用する公募があり、「株式会社福木島となき」が受託し、ここから村民一体となった観光への取り組みが本格的にスタートしました。



島の観光に便利なレンタル用の電動自動車（一人乗り）



（株）福木島となきの皆さん
 右から二人目が代表取締役の南風原豊さん

栗国村

実績を積み

宿泊客受入の協力体制、ガイド養成など、実績を重ねて

それぞれの得意分野を活かしているのね。

まず、国や県の補助事業を積極的に活用し、行政・村民がアイデアを持ち寄り協力し合える関係づくりに取り組みました。一例として、今年三月までの三年間に渡った取り組みでは、島の海に親しむ体験を漁業協同組合が、島人参の収穫体験は農業委員会、地産食材のもちきびなどによるクッキー作り体験は生活改善グループ、昼食の弁当は村内の各食堂、懇親会では伝統芸能披露は社会福祉協議会、料理は生活改善グループとボランティアが担当し、盛り上げました。

「地域が一体となれば何でもできる」という自信につながりました」と語るの、同村経済課の比嘉利恵子さん。また、村内養成講座を経



渡名喜港ターミナル内売店で、島の特産品を販売する生活改善グループの比嘉富子さん(左)と比嘉米子さん

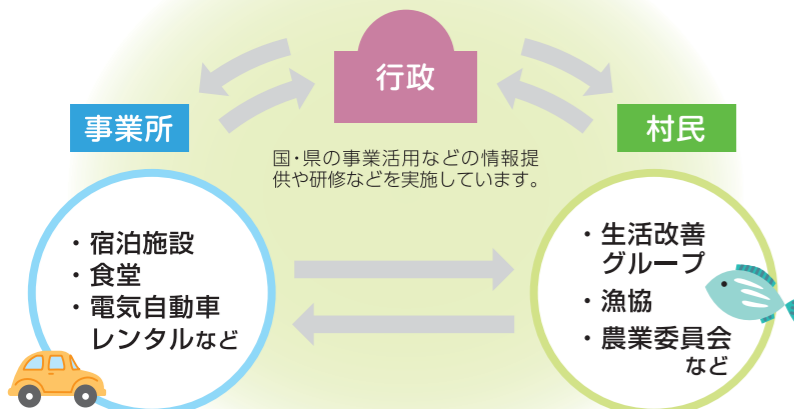
て登録ガイドになった七十代の方の活躍や、特産品の開発が活発化するなど、老若男女それぞれの村民が「島おこし」へ積極的に臨んでいます。

「そのまま」を守り育むことが雇用へも波及するように

雇用にもつながっているのね。

地道に活動を続ける中で、ノウハウが蓄積され、受け入れられる宿泊客数も増え、観光への村民の意識も高まりました。たとえば、村花のカワラナデシコを家の前に植栽する人が増え、八十年以上続く朝の清掃活動「早起き会」では、子どもたちが観光客と一緒に笑顔で

渡名喜村の伝統集落を活かした島おこし



観光客と村民の架け橋となって、さまざまなサービスの提供と提案を行っています。

それぞれの得意分野を活かし島おこしを盛り上げています。

「島へ戻ってきて、働いている若い人が数人います」と笑顔で話すのは、同村経済課の徳元康志さん。渡名喜活性化組合も結成され、村民が一つになって推進する島おこしは、着実に島を元気にしています。



同村経済課課長の比嘉利恵子さん(左)と同課の徳元康志さん

観光につながり、雇用につながる。「島へ戻ってきて、働いている若い人が数人います」と笑顔

編集後記

5月末に沖縄地方を襲った強力な台風2号。塩害によって街路樹の葉が枯れ、落ち葉が舞う様子はまるで秋のようでした。そのまま、たくさんの木が枯れてしまうのか、と心配したのもつかの間、わずか一週間で新芽がはじめていて、植物の生命力の強さに驚きました。(kai)

この時期から沖縄の暑さは本格的に強くなってきます。そこで注意しなければいけないのが、熱中症です。先日、私も草野球の試合中に熱中症の症状が出てしまいました。今月の広報誌の、県の動き2で熱中症対策について取り上げているので、この夏を乗り切るために、皆さんもぜひご覧ください。(tama)

平成23年7月1日発行 第35巻7号通巻430号

沖縄県広報誌 **美ら島沖縄**

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 TEL.098-866-2020

アンケート

「美ら島沖縄」の感想をお聞かせください。

▶ パソコンはこちら [美ら島沖縄](#)

▶ 携帯電話は、右のQRコードから

